



都市と自然、アジアが身近な
21世紀のフロンティア九州

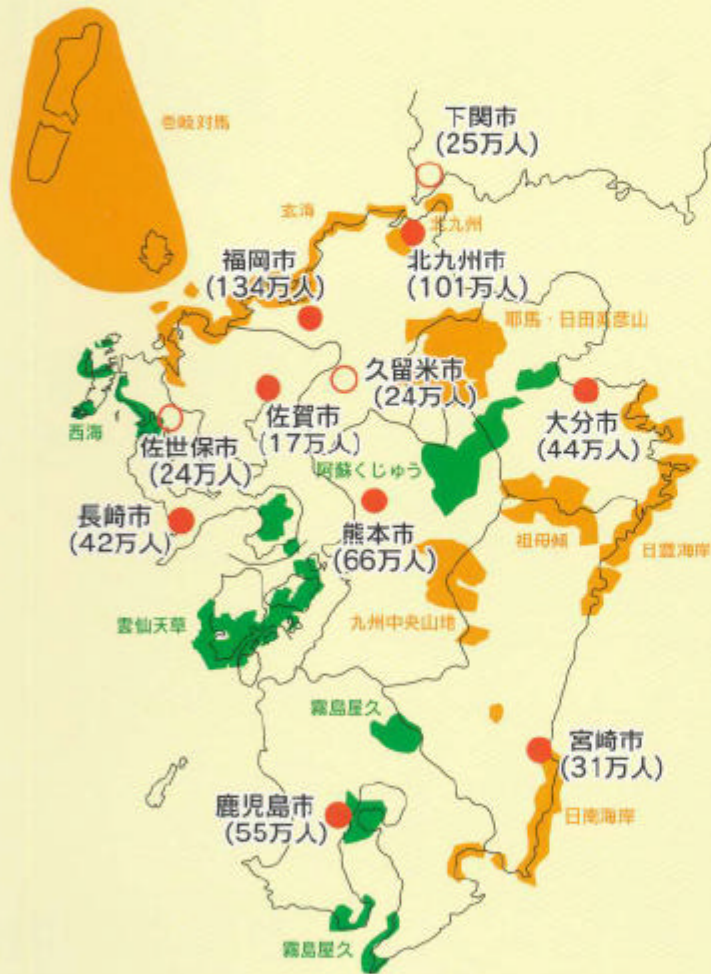
九州・新長期ビジョン

九州の地域特性

ビジョンの策定にあたって、九州の地域特性(九州らしさ)を次のように考えました。

都市と自然が身近

- 九州は、「温暖な気候」と、世界最大のカルデラを有する阿蘇山や世界遺産に登録された屋久島など、豊かで美しい自然に恵まれています。
- また、比較的規模の大きい都市が適度に分散し、都市的機能の集積拠点として、周辺の人々の暮らしを支えています。
- このような都市と自然が身近にある点を活用できることが九州の利点です。

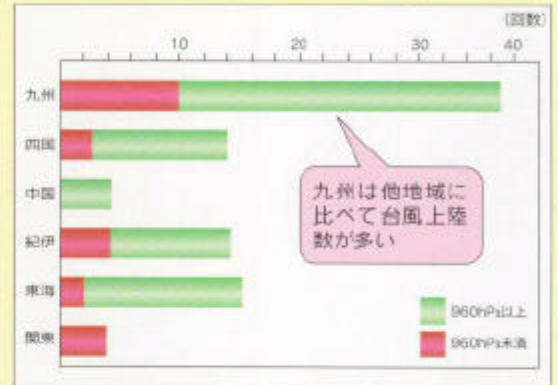


- 国立公園
- 国定公園
- 県庁所在都市 政令指定都市
- 人口20万以上の都市

自然災害が多い

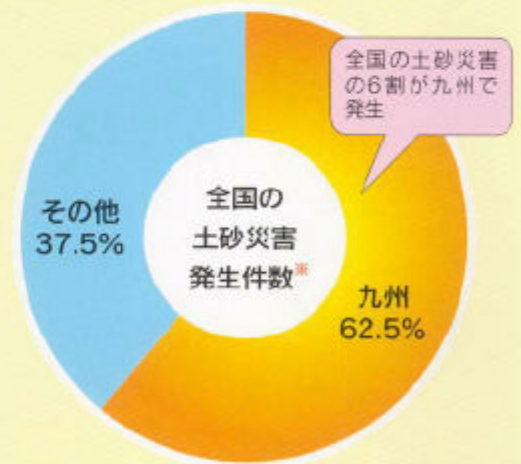
九州は、豊かな自然を生産や生活の糧として享受するとともに、洪水被害、土砂崩れ、高潮被害など度重なる自然災害を蒙ってきました。

地域別台風上陸数(1955~1984年)



出典:福岡管区気象台 第41号より

全国の土砂災害発生件数(1989~2001年)



※年平均1,741件



鹿児島市壱ヶ水の土石流災害(1993年8月)

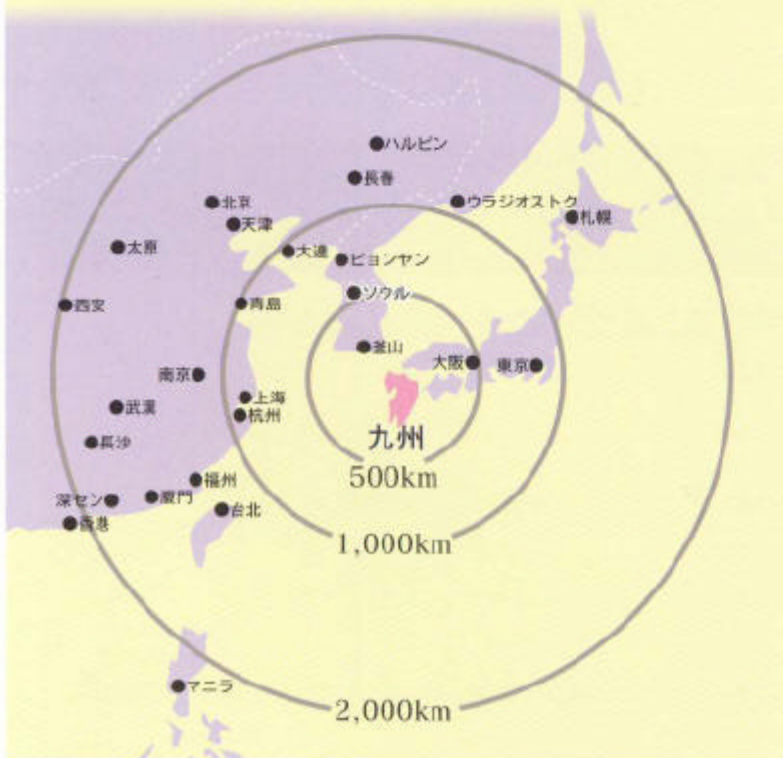
一国に匹敵する地域ポテンシャル

九州の面積、人口、総生産額は、オランダとほぼ同じであり、九州は一国に匹敵する地域ポテンシャルを有していると言えます。



アジアに近い

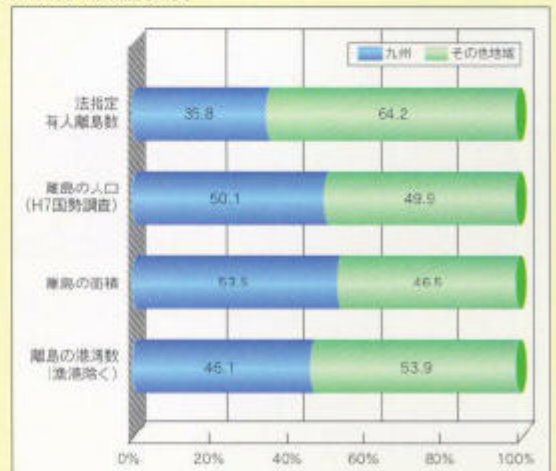
韓国・中国をはじめとするアジアの急成長とボーダレス化の中で、九州には、これらの地域にもっとも近いという優位さがあります。



地理的制約が多い

九州には離島や半島が多く、また、九州山地が九州を東西に分断しているなど、大きな地理的制約を有しています。

九州の離島状況



資料: 離島統計年報'99

目指す将来像

豊かな自然、適度に広がる都市、そして近いアジア。このような九州の特徴を捉え、九州・新長期ビジョンの基本コンセプトを「都市と自然、アジアが身近な21世紀のフロンティア九州」としました。



安全で安心できる
ゆとりある暮らしへ

環境と共生した
循環型社会へ

豊かな個性が
輝く地域へ

自立・一体的な
活力ある地域へ

東アジアとの国際交流を
先導する地域へ

基本施策と施策展開

今後は、それぞれの地域のもつ機能をネットワーク化することで、一つの地域に全てが無くとも、十分にその機能を果たせるような地域づくり、すなわち地域連携による社会資本の充足が必要です。

そこで、九州の将来像に向けた施策は、多様な形態の地域間連携・交流を支援する施策展開を図ることを基本に実施していきます。

基本施策

暮らしを守る国土と 環境の保全・再生

だれもが災害に怯えることなく、良好な環境のもとに安心して日々の暮らしを実現できる、個性あるふるさとづくりを目指します。

自然と都市サービスを享受できる 都市・自然交流圏づくり

九州の特徴である都市の分散と豊かな自然を活かし、九州内のどこに暮らしても都市の利便性や豊かな自然を満喫できるゆとりのある生活を実現し、併せて豊かな個性が輝く地域の形成を目指します。

地域の活力を支える ネットワーク型交流基盤づくり

それぞれの地域が個性を相互に活かしながら、自立・一体的な地域の発展を促し、国内だけでなく、東アジア地域を中心に、海外との交流をも先導する、たくましく活力のある地域の実現を目指します。

施策展開

安全な国土・危機管理の充実 ~安全・安心な国土管理ビジョン~

- 自然災害から都市と地域の暮らしを守ります
- 災害に備えて危機管理体制を充実します

循環型社会に向けた社会基盤づくり ~美しく豊かな自然環境ビジョン~

- 自然環境を保全し、新たな再生に取り組みます
- 地球環境に貢献する環境負荷の少ない社会基盤を整備します

拠点都市の機能高度化 ~潤いと賑わいの都市再生ビジョン~

- 都市の顔となるまちづくりを進め活力と魅力を高めます
- 潤いのある快適な居住環境を整備します

多自然居住地域の生活基盤づくり ~ゆとりと安らぎの多自然居住ビジョン~

- 拠点都市との交通・情報アクセスを充実します
- 自然に囲まれた個性とゆとりの居住地域を創造します

広域交流ネットワークの確立 ~産業・交流支援のネットワークビジョン~

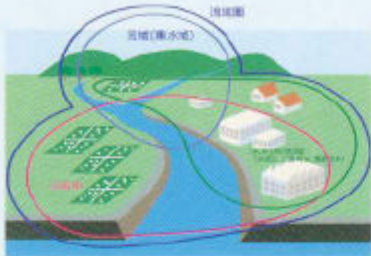
- 産業経済・地域を支えるため、九州内の3時間圏域を目指します
- 連携をとった総合ネットワークを進めます

環黄海・東シナ海を中心とした国際交流基盤づくり ~アジアが身近な九州国際交流推進ビジョン~

- 産業から観光まで国際競争力を高める基盤づくりを充実します
- 東アジア1日交流圏形成を目指して空港アクセスを充実します

国土管理の基本となる流域圏

国土と自然の保全にあたっては、流域圏等、地理的・自然的条件に基づく圏域を基本的な単位とした総合的・広域的な取り組みが必要です。



流域界:
河川水系ごとの流域境界

内海流域界:
1つの内海に流れ込む複数の流域境界



都市・自然交流圏

隣接する都市圏と豊かな自然に恵まれた圏域を有機的に結合させ、自然と都市機能を楽しむことができる広域的な都市・自然交流圏の形成を図ります。



地域連携ネットワーク

基幹都市圏を交通・情報通信ネットワークで結合することにより、九州全体の循環性・回遊性を高めます。

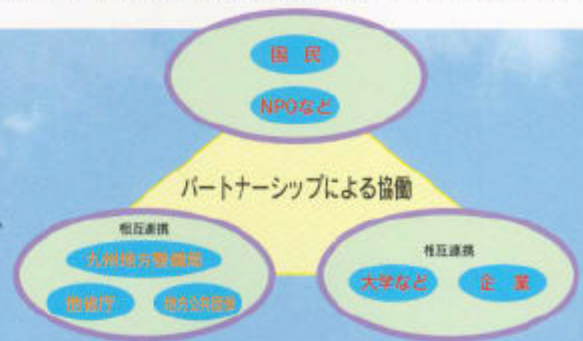


施策の推進方策

施策の推進にあたっては、次のような事項を重視しながら、所管事業の展開を図っていきます。

1 多様な主体の参加と連携を促す コミュニケーション型行政の推進

- 説明責任(アカウンタビリティ)の向上
- 住民とのパートナーシップによる協働(住民ニーズの把握、地域住民との連携促進)
- 多様な主体の参加と連携による地域づくりの支援



地域住民、ボランティア団体、NPO、民間事業者等及び関係行政機関相互の連携を図りつつ、社会資本整備の推進に努めます。

2 良質な社会資本整備の推進

- 誰もが使いやすいユニバーサルデザイン^{*}としての社会基盤の整備
- 丈夫で長持ちのする社会資本整備
- 長い年月の間に風土として地域の個性に溶け込んでいく美しい社会資本の整備

3 効率的・効果的な事業実施と 公平性・透明性の確保

- 地域プロジェクトの発掘・育成と推進
- 統合のメリットを活かした連携施策の推進
- 集中的・重点的な投資による社会基盤整備の効果の早期発現
- 既存の社会基盤の適正な管理と有効活用
- 事業実施における総合的なコスト縮減の徹底
- 入札・契約制度改革による公平性・透明性の確保

4 マネジメントサイクルの確立に向けた 評価システムの充実

- 政策評価システムの積極的な導入
- 地域住民に分かりやすい業績指標(施策の目標達成度を測定する指標)の検討

5 新技術の活用促進及び技術開発の推進

- 適正な新技術・新工法の公共事業への積極的な活用・普及
- 技術開発の推進

^{*} 全ての人々が利用しやすい施設整備を行う考え方

今後の課題

「九州・新長期ビジョン」の目標を実現するため、関係機関と協力しながら、次の課題に取り組んでいきます。

1. 地域づくりの取り組みを育てるしくみづくり

多様な主体による地域づくりの取り組みを直接・間接的に支援し、育てていくための手法や制度の検討

2. 地域が選択するしくみづくり

地域づくりにおける住民の様々な利害関係を合理的に調整し、地域自ら選択する地域づくりのあり方の検討

3. 九州全体で一体となって進める体制づくり

「都市と自然、アジアが身近な21世紀のフロンティア九州」を目指して、九州全体が一体となって九州の国土づくりを進めていくための体制の検討

●ビジョン策定の背景と経緯

九州地方整備局では、省庁再編による統合のメリットを活かし、九州地方の概ね10～15年後の将来像を踏まえた、今後の整備局所管事業のあり方を、「九州・新長期ビジョン検討調査会(会長:矢田俊文九州大学教授)」に審議依頼しました。

検討調査会での審議に加え、住民等へのアンケート調査や九州各地域の懇談会で得られた意見などを踏まえ、「九州・新長期ビジョン～都市と自然、アジアが身近な21世紀のフロンティア九州～」を平成14年4月に取りまとめました。

H13. 7	九州・新長期ビジョン検討調査会(第1回)
H13. 9	住民・市町村長などへのアンケート
H13. 9～	インターネットによる意見収集
H13. 10	九州・国土交通計画協議会(第1回)
H13. 10	九州・新長期ビジョン検討調査会(第2回)
H13. 11～	佐賀、宮崎、大分、鹿児島、長崎、熊本で地域懇談会
H14. 1	明日の九州を語る会
H14. 2	九州・国土交通計画協議会(第2回)
H14. 3	九州・新長期ビジョン検討調査会(第3回)
H14. 4	九州・新長期ビジョン策定

国土交通省九州地方整備局

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
福岡第二合同庁舎
TEL092-471-6331(代)
FAX092-476-3466

〒750-8504 下関市竹崎町4丁目6番1号
下関地方合同庁舎(港湾空港関係)
TEL0832-24-4111(代)
FAX0832-24-4137

URL <http://www.qsr.mlit.go.jp>
Eメール E-mail:bijyon@qsr.mlit.go.jp